

HPV ワクチンに関する調査報告（2025 年度）

2026 年 3 月 5 日
公益財団法人日本対がん協会

発表のポイント

- ・ 2009 年度生まれ（15 – 16 歳）で接種経験ありは 66.2%
- ・ 定期接種対象（12 – 16 歳）のすべての年代で接種経験率が上昇
- ・ 接種のきっかけは「国や自治体から情報提供されたから」が最も高く 38.8%
- ・ 非接種理由では「副反応が不安だから」が最も高く 52.6%（前年 59.3%）

調査の背景

日本では、2010 年 11 月から、子宮頸がん等ワクチン接種緊急事業が開始された。2013 年には HPV ワクチンの定期接種が始まったが、厚労省審議会で、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の頻度がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるようになるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない、とされた。これを受けて、2013 年 6 月 14 日に積極的勧奨差し控えが厚労省健康局長名で通知されたが、これ以降も審議会などで議論が進み、2022 年 4 月に積極的勧奨は再開された。

定期接種対象 = 小学校 6 年～高校 1 年相当（12 – 16 歳）の女性

こうした状況を受けて、定期接種対象の接種状況や意識の違いを探り、ワクチン施策に反映させることを目的に、「HPV ワクチン調査」（ウェブアンケート調査）を 2024 年度に続き、2025 年度も定期接種世代を対象に実施した。

調査の概要

公益財団法人日本対がん協会（垣添忠生会長）は、HPV ワクチンをめぐる状況を調べるために、前年の 2024 年度に実施した調査と同時期の 2025 年 10 月 17 日～10 月 21 日にウェブアンケート調査を実施した。対象者は、定期接種世代の小学 6 年生～高校 1 年生（2009 年 4 月 2 日～2014 年 4 月 1 日生まれ）の女性で、母親に代理回答をしてもらい、回答数 5788 サンプルを得た。

調査の主な内容

■ HPV ワクチンの定期接種対象の接種実態

定期接種対象では、年代が高くなるほど、接種経験率は高い結果となった。

全年代において、前回の 2024 年度調査と比較して、接種経験率は 12～22 ポイント程度上昇した。定期接種対象では、子宮頸がん・HPV ワクチンの認知率も上昇していた。

全年代において、前回の同年齢の接種率と比較しても高い水準にあり、定期接種対象に向けて現状で進められている HPV ワクチンに関する認知拡大施策や情報提供、公費助成施策などが接種行動に結びついている可能性を示した。ただ、2012 年度生まれから下の年代では相対的に上の年代よりも接種率が低く、この年代へのアプローチが課題として浮かび上がった。

* 「シルガード9」「ガーダシル」「サーバリックス」の接種回数は計 3 回だが、シルガード9 の場合は、15 歳になるまでに 1 回受ける場合は計 2 回になる。2026 年度からは定期接種の対象は「シルガード9」のみになる予定。

HPV ワクチン接種の接種状況（2024 年度調査と 2025 年度調査）

（2009 年度-2013 年度生まれの女性 かつ HPV ワクチン認知者）

	n=30以上の時		3回		2回		1回		接種したことはない		わからない・答えたくない		接種経験あり計	
	n=		2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年
	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年
2009年度生まれ（15-16歳）	354	355	14.4	17.7	18.6	39.2	16.7	9.3	48.0	29.9	2.3	3.9	49.7	66.2
2010年度生まれ（14-15歳）	310	332	5.8	7.5	15.2	32.2	13.5	12.3	61.0	44.3	4.5	3.6	34.5	52.1
2011年度生まれ（13-14歳）	295	342	1.7	3.5	7.8	24.6	20.7	14.6	67.8	55.0	2.0	2.3	30.2	42.7
2012年度生まれ（12-13歳）	210	299	1.4	1.3	1.9	15.1	12.4	21.4	80.5	57.9	3.8	4.3	15.7	37.8
2013年度生まれ（11-12歳）	-	243	-	2.1	-	4.5	-	9.9	-	78.2	-	5.3	-	16.5

(%)

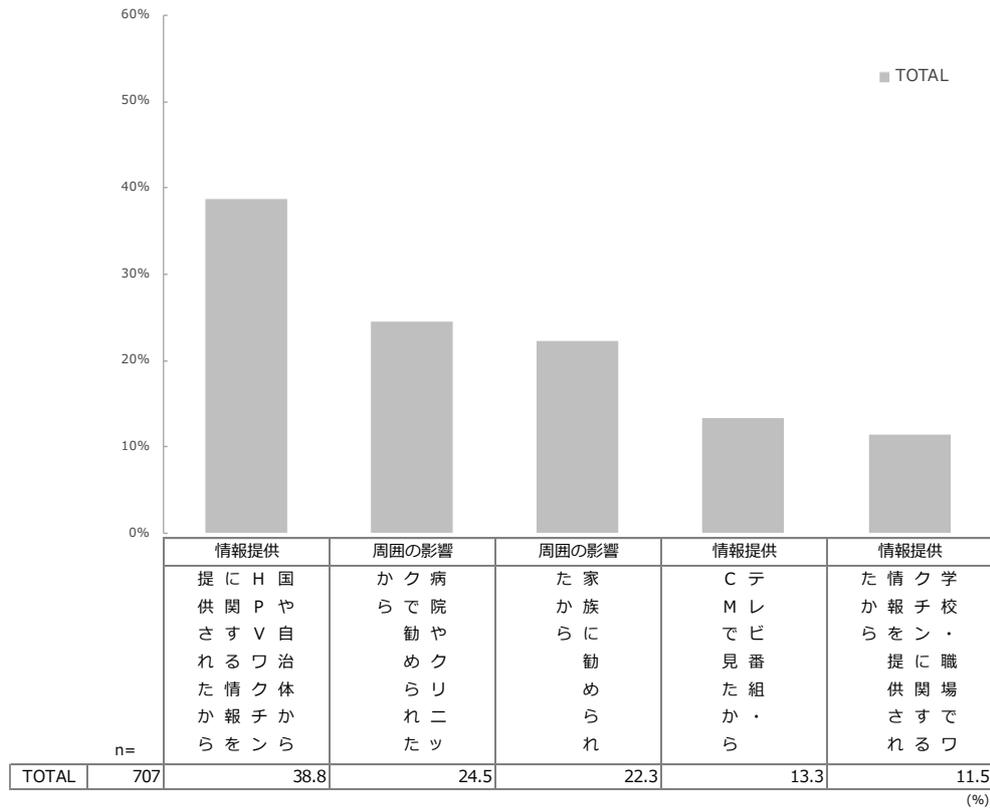
* 参考 = 2024 年度調査で 2008 年度生まれの接種経験は 57.1%

HPV ワクチン接種のきっかけと非接種理由(上位 5 項目)[2009 年度 – 2013 年度生まれの女性 かつ HPV ワクチン接種経験の有無]

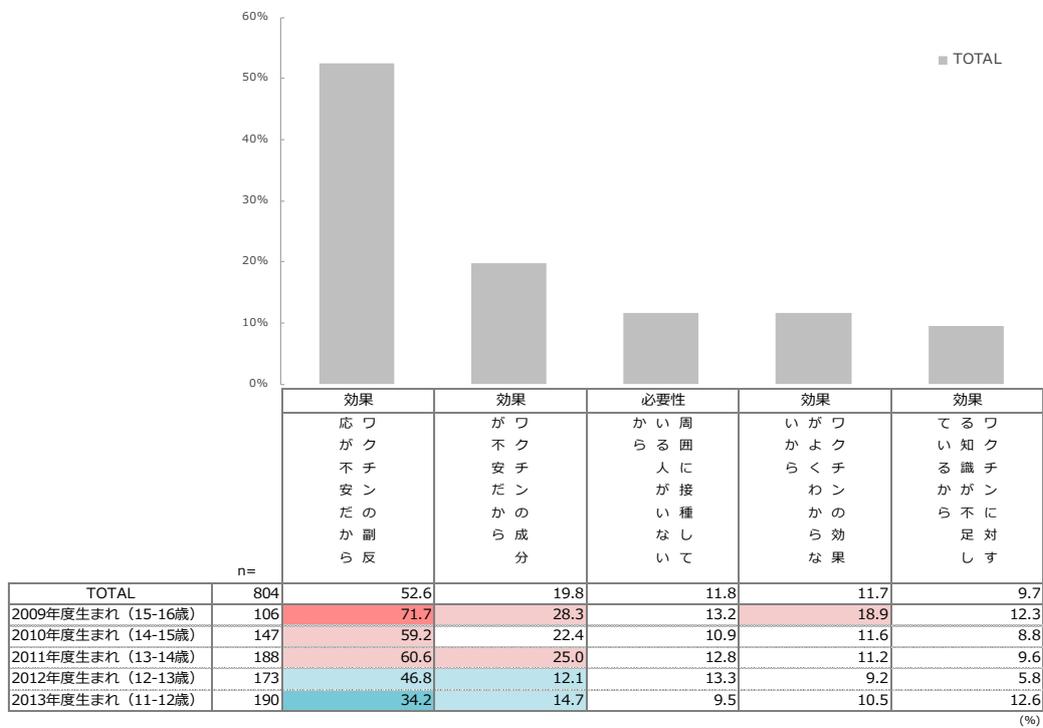
HPV ワクチンの接種のきっかけでは、全体で「国や自治体から HPV ワクチンに関する情報を提供されたから」が最も高く 38.8% だった。そのほかにも、上位では、「情報提供」「周囲の影響」がきっかけとして多く挙がった。

HPV ワクチン非接種理由では、全体で「ワクチンの副反応が不安だから」が最も高く、52.6% だった。前回の調査よりも低下傾向だが、接種未経験者の半数以上は「ワクチンの副反応」に不安を感じていた。

■ HPV ワクチン接種のきっかけ（上位 5 項目） = HPV ワクチン接種経験あり



■ HPV ワクチン非接種理由（上位 5 項目） = HPV ワクチン接種経験なし



■ HPV ワクチン接種に対する意識

HPV ワクチンのイメージは全体で「予防効果がある／ありそう」が 21.1%と最も高い。

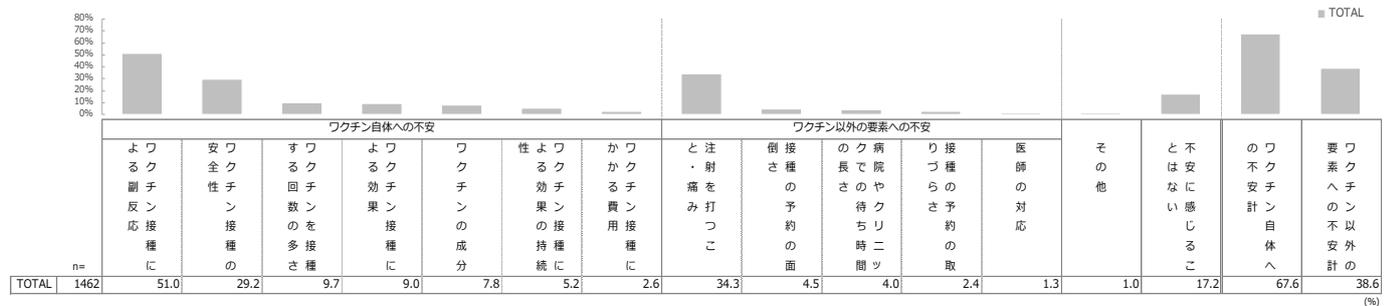
前回はネガティブ意見の「副反応が多い／多そう」が最も高かったが、今回はポジティブな意見がトップになった。

非接種理由でも「副反応への不安」は低下傾向にあった。

■ HPV ワクチンのイメージ（2009 年度 – 2013 年度生まれの女性 かつ HPV ワクチン認知者）

n=	ポジティブ	ネガティブ	ネガティブ	ネガティブ	ネガティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ポジティブ	ネガティブ	ネガティブ	ポジティブ	ポジティブ	その他	にイ ない メー ジは 特	
	る予 ／防 あ効 り果 そが うあ	／副 多反 そ応 うが 多い	不安 ・危 険な	不信 感 が あ る	評判 が 悪 い	信 頼 で き る	る接 種の が予 断予 約す	安心 ・安 全な	い副 ／反 少応 なが そ少 うな	る接 種の が予 断予 約す	い予 ／防 な効 さ果 そが うな	評判 が 良 い	親 し み や す い			
2024年TOTAL	1169	18.5	20.4	22.2	9.7	4.9	2.4	1.5	1.5	1.5	1.2	0.9	0.9	0.1	2.3	43.6
2025年TOTAL	1571	21.1	19.7	17.8	9.4	3.6	3.0	2.3	2.0	1.3	1.3	0.8	0.8	0.3	1.7	43.4

■ HPV ワクチンの不安点（2009 年度 – 2013 年度生まれの女性 かつ HPV ワクチン認知者）



■ 子宮頸がんの認知・理解度

子宮頸がんの認知率は全年代で前回と比較して 2～13 ポイントほど上昇。定期接種対象では子宮頸がんの認知向上が顕著だった。

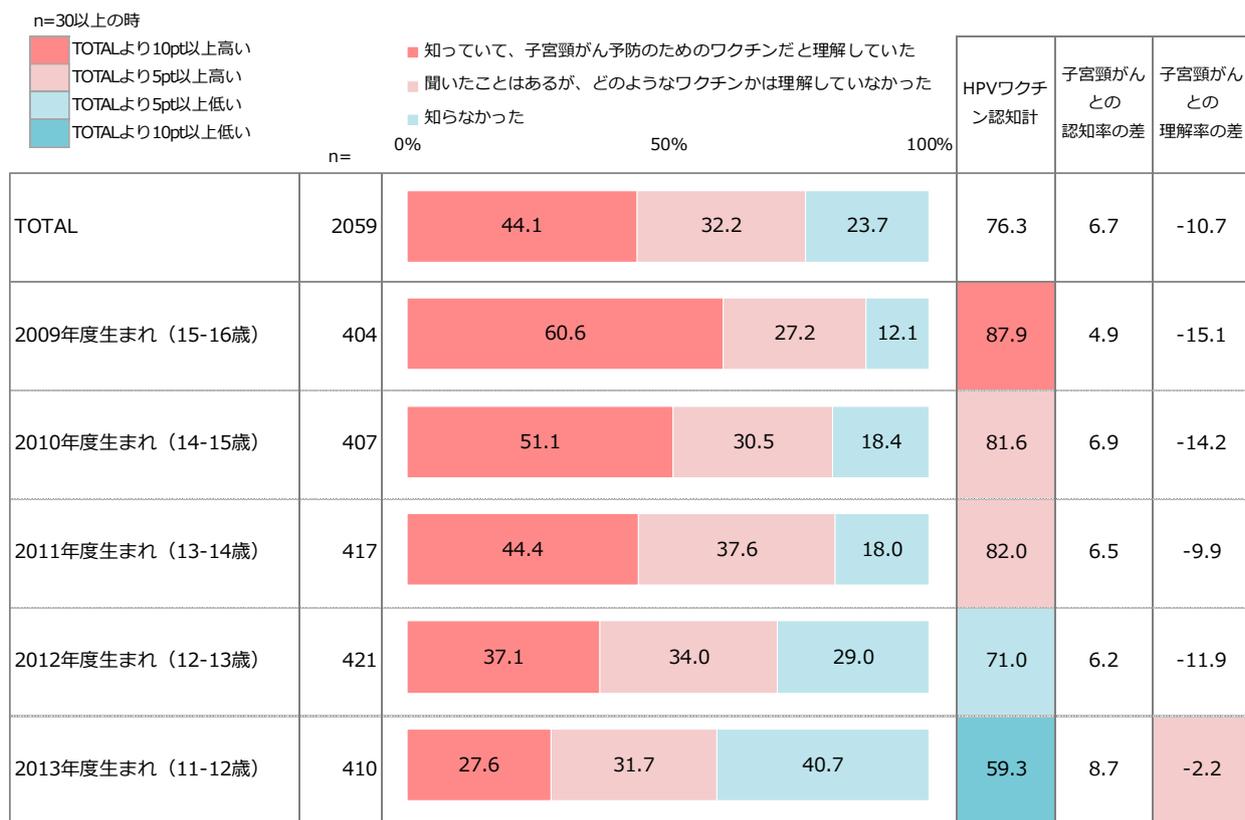
n=30以上の時	2024年	2025年	どのような病気が知っている		聞いたことはあるが、 どのような病気かは理解していない		知らない		認知計	
			2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年
			2009年度生まれ（15-16歳）	408	404	37.7	45.5	52.5	47.3	9.8
2010年度生まれ（14-15歳）	403	407	27.3	36.9	56.8	51.6	15.9	11.5	84.1	88.5
2011年度生まれ（13-14歳）	409	417	26.4	34.5	52.8	54.0	20.8	11.5	79.2	88.5
2012年度生まれ（12-13歳）	394	421	22.3	25.2	41.1	52.0	36.5	22.8	63.5	77.2
2013年度生まれ（11-12歳）	-	410	-	25.4	-	42.7	-	32.0	-	68.0

■ HPV ワクチンの認知・理解度

HPV ワクチンの認知度は定期接種対象では、年代が高いほど認知率も高くなる傾向

いずれの年代においても、HPV ワクチンの認知率は子宮頸がんの認知率より低いものの、「名前だけでなく内容も理解している層」はすべての年代で子宮頸がんより高い。HPV ワクチン定期接種対象になりたての年代やこれから対象となる年代の認知率拡大が肝要。

■ HPV ワクチン認知度



※子宮頸がんとの認知率の差：子宮頸がん認知計 - HPVワクチン認知計 (%)

※子宮頸がんとの理解率の差：子宮頸がんがどのような病気か知っている - HPVワクチンを知っていて、子宮頸がん予防のためのワクチンだと理解していた (pt)

■ HPV ワクチンの認知 (時系列比較)

子宮頸がんの認知率は全年代において前回と比較しても1～18ポイント上昇。

定期接種対象では、HPV ワクチンの認知向上が顕著。「どのようなワクチンか知っている」のスコアも、全年代において4～10ポイント上昇。

n=30以上の時

- 各項目で2024年より10pt以上高い
- 各項目で2024年より5pt以上高い
- 各項目で2024年より5pt以上低い
- 各項目で2024年より10pt以上低い

	n=		知っている、子宮頸がん予防のためのワクチンだと理解していた		聞いたことはあるが、どのようなワクチンかば理解していなかった		知らなかった		認知計		子宮頸がんとの認知率の差		子宮頸がんとの理解率の差	
	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年
2009年度生まれ (15-16歳)	408	404	56.6	60.6	30.1	27.2	13.2	12.1	86.8	87.9	3.4	4.9	-18.9	-15.1
2010年度生まれ (14-15歳)	403	407	46.9	51.1	30.0	30.5	23.1	18.4	76.9	81.6	7.2	6.9	-19.6	-14.2
2011年度生まれ (13-14歳)	409	417	35.2	44.4	36.9	37.6	27.9	18.0	72.1	82.0	7.1	6.5	-8.8	-9.9
2012年度生まれ (12-13歳)	394	421	26.9	37.1	26.4	34.0	46.7	29.0	53.3	71.0	10.2	6.2	-4.6	-11.9
2013年度生まれ (11-12歳)	-	410	-	27.6	-	31.7	-	40.7	-	59.3	-	8.7	-	-2.2

(%) (pt)

※子宮頸がんとの認知率の差：子宮頸がん認知計 - HPVワクチン認知計
 ※子宮頸がんとの理解率の差：子宮頸がんがどのような病気か知っている - HPVワクチンを知っていて、子宮頸がん予防のためのワクチンだと理解していた

■ ワクチン非接種理由

ワクチン非接種理由では、2011年度生まれ以前で効果に関連する項目のスコアが前年より上昇傾向

n=30以上の時

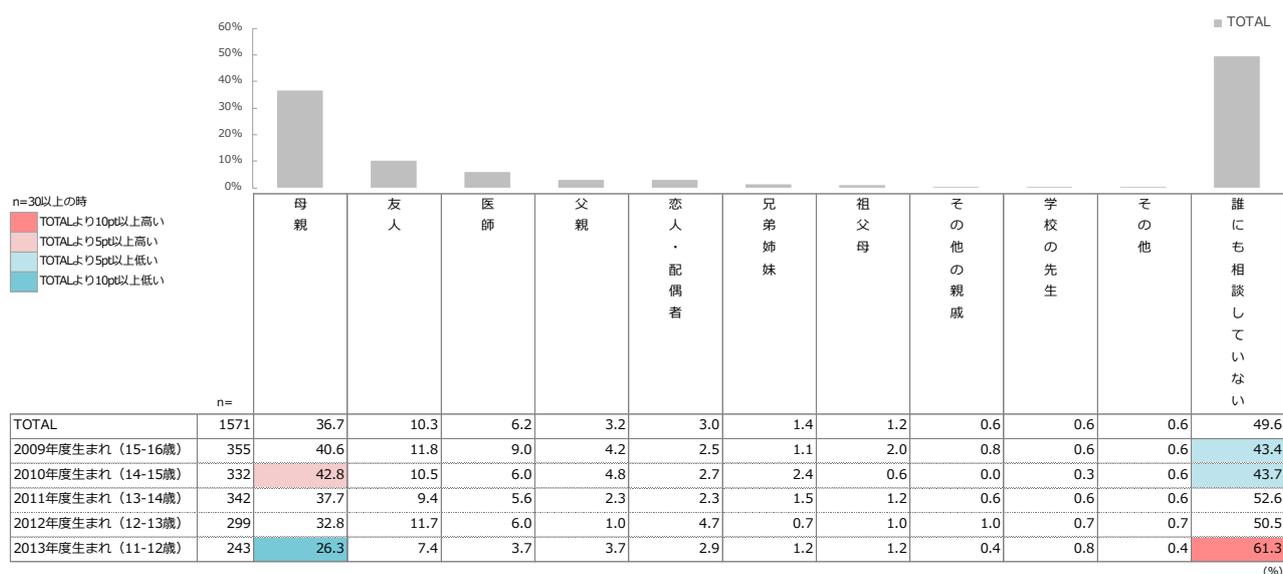
- 各項目で2024年より10pt以上高い
- 各項目で2024年より5pt以上高い
- 各項目で2024年より5pt以上低い
- 各項目で2024年より10pt以上低い

	n=		時間		必要性										効果													
	2024年	2025年	2024年	2025年	病院やクリニックに行くのが面倒だから	周囲に接種している人がいないから	現在健康で、接種の必要がないと感しているから	ワクチンの必要性を理解していないから	医師から接種を勧められていないから	接種が推奨されていないから	過去にHPVに感染したことがないから	子宮頸がん検診を受けていてワクチン接種の必要がないから	ワクチンの副作用が不安だから	ワクチンの成分が不安だから	ワクチンの効果がよくわからないから	ワクチンに対する知識が不足しているから	過去にワクチンで副反応を経験したから	2024年	2025年	2024年								
2009年度生まれ (15-16歳)	170	106	4.7	3.8	13.5	13.2	3.5	4.7	4.1	5.7	1.2	1.9	1.2	3.8	0.6	0.9	0.0	0.0	62.9	71.7	26.5	28.3	8.8	18.9	8.8	12.3	2.4	4.7
2010年度生まれ (14-15歳)	189	147	2.6	1.4	13.2	10.9	4.8	8.2	3.2	4.1	1.6	4.1	0.5	0.0	0.5	0.7	0.0	0.0	61.9	59.2	21.7	22.4	10.1	11.6	16.9	8.8	3.2	2.0
2011年度生まれ (13-14歳)	200	188	4.0	4.3	17.0	12.8	3.0	1.6	3.5	2.7	1.5	2.1	0.0	0.5	1.0	1.1	0.0	0.0	55.5	60.6	22.0	25.0	11.0	11.2	15.5	9.6	3.5	1.1
2012年度生まれ (12-13歳)	169	173	3.0	4.0	15.4	13.3	1.2	2.9	5.9	1.2	1.8	1.2	1.2	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	43.8	46.8	11.2	12.1	4.7	9.2	11.8	5.8	2.4	1.7
2013年度生まれ (11-12歳)	-	190	-	1.1	-	9.5	-	2.1	-	1.6	-	3.2	-	1.6	-	0.0	-	0.0	-	34.2	-	14.7	-	10.5	-	12.6	-	1.6

	n=		情報		費用		その他		その他	特に理由はない	時間計		必要性計		効果計		情報計		費用計		その他計											
	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年	2024年	2025年			2024年	2025年																				
2009年度生まれ (15-16歳)	170	106	11.2	8.5	11.2	5.7	4.1	1.9	0.6	2.8	1.8	1.9	2.9	2.8	1.2	1.9	11.2	6.6	8.2	9.4	4.7	3.8	21.8	25.5	70.6	77.4	20.6	13.2	1.8	1.9	4.1	4.7
2010年度生まれ (14-15歳)	189	147	10.1	10.9	10.6	7.5	3.7	2.7	4.2	1.4	1.1	0.0	4.2	4.1	1.1	3.4	7.9	9.5	12.7	9.5	2.6	1.4	20.6	22.4	70.9	72.8	19.6	16.3	1.1	0.0	5.3	6.8
2011年度生まれ (13-14歳)	200	188	8.0	6.9	9.5	8.0	4.0	5.3	2.0	2.1	1.0	1.1	2.5	3.7	1.5	2.1	12.0	9.6	16.0	13.8	4.0	4.3	20.5	18.1	65.5	71.3	15.0	16.0	1.0	1.1	4.0	5.9
2012年度生まれ (12-13歳)	169	173	6.5	5.2	6.5	8.7	0.6	2.9	1.8	2.9	2.4	2.3	0.6	3.5	1.8	1.2	20.7	13.3	17.8	20.2	3.0	4.0	23.7	16.2	51.5	52.0	10.7	13.9	2.4	2.3	2.4	4.6
2013年度生まれ (11-12歳)	-	190	-	5.3	-	4.2	-	1.6	-	1.1	-	2.1	-	1.1	-	1.1	-	17.4	-	26.3	-	1.1	-	14.2	-	46.3	-	10.5	-	2.1	-	2.1

(%)

■ HPV ワクチン接種について相談した相手



まとめ

HPV ワクチンの定期接種について、状況は改善しているとみられる。HPV ワクチン接種で広範な疼痛や運動障害などの多様な症状が生じた場合の相談支援や適切な医療の提供体制も整えられてきた。

HPV ワクチンに詳しい和歌山県立医科大学の上田豊教授（先進予防・健康医学）は「我々の解析とも合致する傾向で信頼できる。背景を含めた今回のような各年代の多数の人を対象にした調査は例がなく貴重だ。定期接種対象では接種率は増加傾向があるが、7割程度だった定期接種導入前の公費助成の時期の水準には達していない。小中学校や教育委員会などとのさらなる連携強化も必要だろう」と指摘している。